

壁掛形 据付工事説明書

PHA012D405

201904



本説明書は、室内ユニットの据付け方法を記載しております。
電気配線（室内ユニット）は、電気配線工事説明書をご覧ください。
リモコンの取付け方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。
ワイヤレスキットの取付け方法は、ワイヤレスキット付属の説明書をご覧ください。
室外ユニットの据付け方法、電気配線（室外ユニット）及び冷媒配管工事方法は、
室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。
また、故障診断は、室内ユニットの接続銘板をご覧ください。
本室内ユニットは必ずパネルを取付けご使用ください。

安全上のご注意

- 据付け工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、**【A注意】**、**【B注意】**、に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大いにある**【A注意】**の欄にまとめて記載しています。しかし、**【B注意】**の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる「図記号」の意味は右のとおりです。**【A】** 絶対に行わない **【B】** 必ず指示に従う
- 据付け工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法、「お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法など）」をお客様に説明してください。
この取扱説明書は取扱説明書と共にお客様へ保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

△警告

- 据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。
ご自分で据付け工事をされれば、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。
- 据付け工事は、この取扱説明書に従って確実に行う。
据付けに不備があると感電や感電、火災などの原因になります。
- 室内に据付けする場合は、冷媒が漏れても、境界温度を超えない対策をする。（JRA GL-13）
境界温度を超えない対策については、販売店と相談して据付けする。冷媒が漏れても境界温度を超えないと酸欠事故の原因になります。
- 設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。
●仕指定の部品を使用しないと、ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。
- 室内に冷媒が漏れた場合は換気をする。
冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。
強度が不足している場合は、ユニットの落下などにより、ケガの原因になります。
- 台風などの強風、地震に備え、所定の据付け工事を行う。
据付け工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付け説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用し確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。
- 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。
カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。
- 据付け工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。
冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 配管、フレアナット、工具はR32用またはR410A用を使用する。
既存（R22）の配管の接続と同時に冷凍サイクルの破損などの重大な事故の原因になります。
- フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で取付ける。
フレアナットの締め過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。
- ドレン配管はイオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。
室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内機を腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。
- 据付け作業で圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。
冷媒配管を取付けず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破損、ケガなどの原因になります。
- ポンプダウン作業は、サービスバルブを閉じた後配管を外す前に圧縮機を停止する。
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管を外すと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破損、ケガなどの原因になります。
- オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取り付けは専門業者に依頼する。
ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ずOFFする。
点検・修理にあたって、電源ブレーカがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
- パネルガードを外した状態で運転しない。
機体の回転軸、高温部、高圧圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。
- 元電源を切った後に電気工事を行う。
感電、故障や動作不良の原因になります。



①据付けのまえに

- 据付けはこの取扱説明書に従って正しく行ってください。
- 次の項目を確認してください。
- 機種・電源仕様 ○配管・配線・小部品 ○付属品

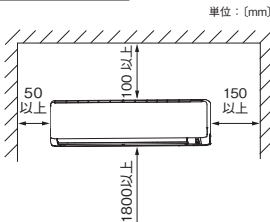
据付け関係

1	据付け板		1 個	室内ユニット裏面に付属
2	タッピンネジ		10 個	据付け板用 径 4mm × 長さ 25mm
3	インシレーション		1 個	断熱用 50mm × 100mm
4	空気清浄フィルター		2 個	付属品
5	フィルターホルダー		2 個	付属品

②室内ユニットの据付け場所の選定

- ①据付け場所は、下記条件に合う場所をお客様の承諾を得て選んでください。
 - ・冷風または温風が十分に行きわたる所。据付高さ3mを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
 - ・据付・サービスタ時の作業スペースが確保できる所。
 - ・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
 - ・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
 - ・侵入外気の影響のない所。
 - ・直射日光の当たらない所。
 - ・周囲の露点温度が23℃以下、相対湿度80%以下の所。
 - ・（本ユニットはJIS規格条件にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度）
管内部の状態が運転すると水滴が落下する恐れがあります。
 - ・テレビ、ラジオより1m以上離れた所。（映像の乱れや雑音が生じることがあります。）
 - ・ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器等濡れて困るものを置かない所。
 - ・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
 - ・フライヤーの真上など油・粉・蒸気等を直接吸込みない所。
 - ・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。
- ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。
- ②据付けようとする場所が室内ユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われる場合は、桁等で補強して据付け作業を行ってください。強度不足の場合は、室内ユニット落下によるケガの原因になります。
- ③ワイヤレス機種を2台以上据付けする場合は、誤作動を防止するため室内ユニット間を6m以上離してください。

室内ユニット据付けスペース



お願い

- 点検、メンテナンス作業のためスペースを確保してください。

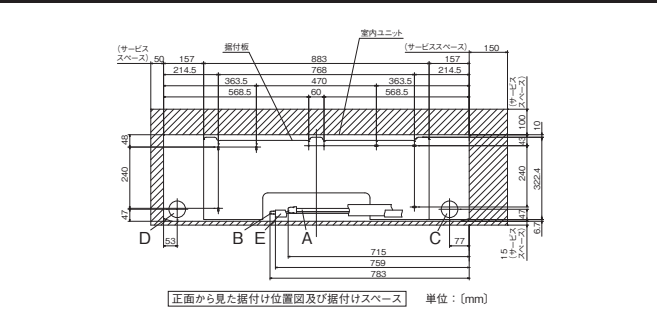


△注意

- アース（接地）を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、給排水、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。
- 漏電遮断器は必ず取り付け。
漏電遮断器が取り付けられていないと火災や感電の原因になることがあります。
- 正しい容量の全線遮断するブレーカ（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器・B 極ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。
ガスがユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。
- 換気室など、水の掛かる所では使用しない。
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしていません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。
- 食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。
保存物の品質低下などの原因になることがあります。
- 工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。
スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。
- 洗濯室など、水の掛かる所では使用しない。
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしていません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。
- 直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。
リモコンの故障や劣化の原因になることがあります。
- 次の場所への据付けは避ける。
 - ・可燃性ガスの漏れる恐れがある所
 - ・腐食性ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど、・煙突の煙がかかる所
 - ・機械に影響する振動や騒音の発生する場所
 - ・油の滴下や蒸気が多い所（調理場、機械工場など）
 - ・高周波を発生する機械を使用する所
 - ・性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。
- 次の場所への室内機の据付けは避ける。（機種により異なる制限があるため、その指示に従ってください）。
 - ・吸込口、吹出口に風の障害物がある所
 - ・強度が不足して破損が起きる所
 - ・ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所
 - ・高周波に影響される機器のある所（TV およびラジオ等の近傍）
 - ・ドレンの排水がされない所
 - ・性能や機能に影響をおよぼす原因になります。
- エアコンの下部には、濡れて困るものは置かない。
湿度が80%以上の時、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから水滴が落下し損害が生じることがあります。
- 長期使用で傷んだままの据付け台を使用しない。
傷んだ状態で設置するとユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。
- ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、ユニット内へのスパッタの飛入を防止する。
溶接作業時などに発生するスパッタがユニットにあたって燃焼、ドレンパイプなどに腐蝕（ヒートマーク）をあたえ、水漏れなどの原因になることがあります。ユニット内へのスパッタの飛入を防ぐため梱包状態のままとしておき、覆いなどにより必ずカバーをしってください。
- ドレン工事は、据付け説明書に従って確実に排水するように配管する。
●確認する場合、室内に浸水し、薬剤などを漏らす原因になることがあります。
- GHP（ガス）の接続、室内ユニットの配管、室内ユニットの配管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。
室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。
- 冷媒配管工事終了後は室内ガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認してください。
ガス、挟み漏れに冷媒ガスが漏れて境界温度を超えると酸欠事故の原因になることがあります。
- ドレン配管は下記（1/100 以上）とし、途中へ逆戻りやトラップを作らない。また、ドレン配管に工法は、絶対に設けない。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。
- 冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。
不完全な断熱施工を行くと配管と表面が結露して、腐れなどを発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。
- 小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発火、火災の原因になることがあります。
- 製品の運搬は十分注意し、20kg以上の製品は車などにより運搬してください。PPバンドなど指定の位置以外をもって製品を動かさないでください。
素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護器具をご使用ください。
- 梱包の処理は確実に行う。
梱包材にキズなどの金属あるいは、木片などを使用していますので放置状態にしますとケガをすることがあります。
- オイルをはずし圧縮機を動かさない。
内部に油・ゴミなどが詰まり、故障の原因になることがあります。
- 濡れた手でスイッチを操作しない。
感電の原因になることがあります。
- 運転中の冷媒配管を素手で触れない。
回転中の冷媒配管は濡れた冷媒の接触により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。
- 運転停止後、すぐに電源を切りません。
必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。
- 電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。



③据付け前の準備



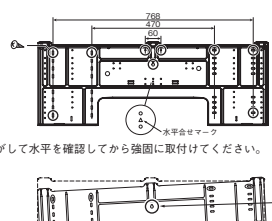
④室内ユニットの据付け

- 搬入時は、できるだけ据付け現場の近くまで梱包のまま搬入してください。
- やむを得ず解梱して搬入する場合は、ナスロンスリングなどで包みユニットを傷つけないように注意してください。
- （注）吹出ルーバー部分を持たないでください。
- 解梱後ユニットを置く場合は、必ずユニットの前面側を上にしておいてください。

据付け板の取付け

- このユニットを直接壁面に据付けることはできません。
- いずれの場所に据付ける場合にも必ず付属の据付け板を使って据付けてください。

○据付け板の水平調節は9本のねじを仮締めした状態で行います。



○壁内の構造物（間柱など）をさがして水平を確認してから強固に取付けてください。

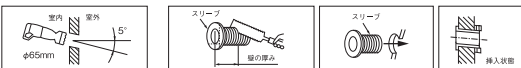
○基準穴を中心に四角に水平になるよう調節します。



④室内ユニット据付けのつづき

壁の穴のつづき

- 接続配線が壁の中のスリーブなどに接触して危険が生じる場合がありますのでスリーブは必ず使用してください。
- 左後抜き配管の場合、スリーブのツバが本体よりはみ出る場合がありますので、その場合はツバを切断してください。



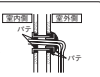
- φ65のホルコアダロで△を付けます。
- 右後抜き配管の場合はスリーブのツバの下部及び右側薄肉部を切りとります。(破線指示箇所)

警告

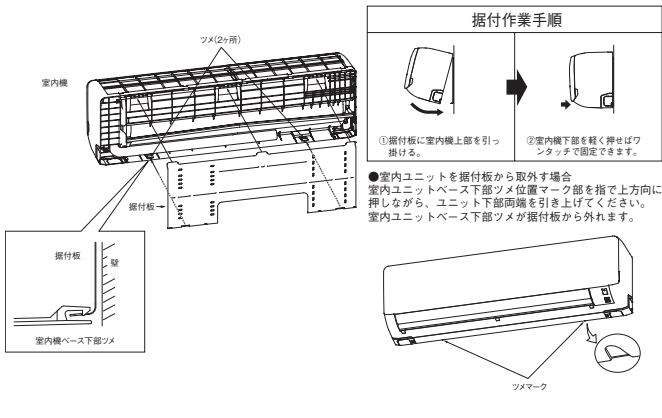
壁穴をバテで完全にシールしてください。
(ホコリ・塵・小動物・高湿度の外気が室内機内へ流入し、火災の原因になることがあります。)

注意

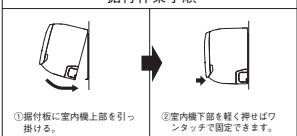
壁穴をバテで完全にシールしてください。
(水漏れ・腐食・カビ・害虫等を漏らす原因になることがあります。)



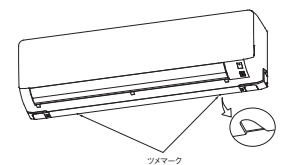
ユニットの据付



据付作業手順

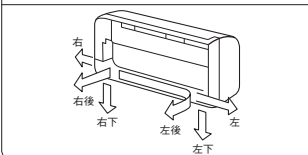


- 室内ユニットを据付板から取外す場合
室内ユニットベース下部ツメ位置マーク部を指で上方に押しながら、ユニット下部両端を引き上げてください。
室内ユニットベース下部ツメが据付板から外れます。

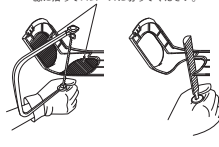


⑤配管・ドレンホースの整形

配管は、後、左、左後、右、下から取り出せます。



横または下部に配管する場合は、パネルを線に沿ってスムーズに切ってください。

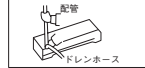


5

⑤配管・ドレンホースの整形のつづき

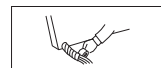
(後取り出しの場合)

○配管の整形



- 配管の根元を押さえ向きを変えてから延ばし整形する

○テープ巻き

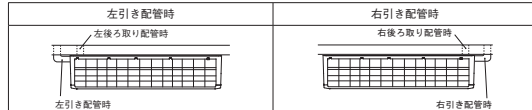


- 壁穴を通す長さ分だけテープ巻きしてください。
- 塗り配線は必ず配管とテープビグしてください。
- テープ巻きの際、ドレンホースが引っ張られないように注意してください。

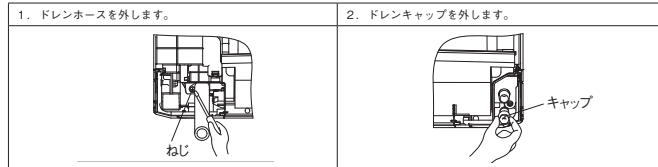
配管の整形後テープ巻きを行う前に接続電線が端子台にしっかり固定されていることを確認してください。

(左取り出し・後取り出し時の注意事項)

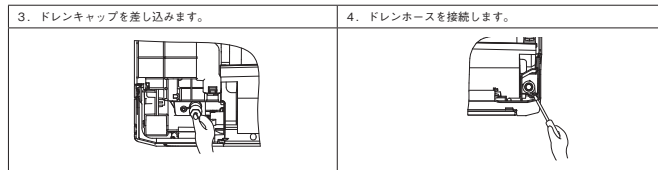
(上から見たところ)



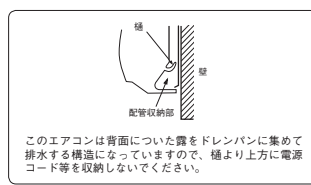
(ドレンホース付録え作業手順)



- ドレンホース固定用ねじを外しドレンホースを回転させながら外してください。
- 手または、ペンチ等で外してください。



- 2. で外したドレンキャップを六角レンチ等を持ちて確実に差し込んでください。
注：確実に差し込まれていないと水漏れの原因になりますのでご注意ください。
- ドレンホースを回転させながら確実に差し込んだあと、固定用ねじを取りつけてください。
注：確実に差し込まれていないと水漏れの原因になりますのでご注意ください。



このエアコンは背面に付いた露をドレンパンに集めて排水する構造になっていますので、種より上方に電源コード等を収納しないでください。

6

⑥冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

- 冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のもの又は JIS B 8607 2 種適合品をご使用ください。既設配管再利用の可否及び洗浄方法については、室外ユニットの据付説明書又はカタログ・技術資料で確認してください。
- 1) 再利用する場合、フレアナットは流用せず室内ユニットに付属のもの又は JIS B 8607 2 種適合品を使用してください。
- 2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32 用または R410A 用のフレア加工をしてください。

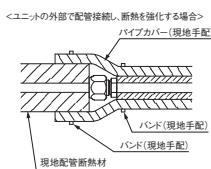
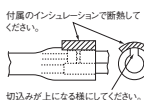
配管径 d mm	配管の 最小肉厚 mm	フレア加工 突出寸法 mm リジッド (クラッチ式) R32 用 R410A 用	フレア外径 D mm	フレアナット 締付けトルク N・m
6.35	0.8	0.7 ~ 1.3	8.9 ~ 9.1	14 ~ 18
9.52	0.8		12.8 ~ 13.2	34 ~ 42
12.7	0.8		16.2 ~ 16.6	49 ~ 61
15.88	1		19.3 ~ 19.7	68 ~ 82
19.05	1.2		23.6 ~ 24.0	100 ~ 120

- 冷媒配管は、リン酸銅合金無銅管 (C1220T、JIS H 3300) をご使用ください。また管の内外面は美観であり、使用上有毒な硫黄、硫化物、ゴミ、切粉等 (コンタミ) の付着がないことを確認してください。冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。
- 指定冷媒以外は使用しないでください。
指定冷媒以外を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。指定冷媒は室外ユニットの形式ラベルをご覧ください。
- 据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端ともラップを付けた状態でシールしてください。
冷媒配管に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
- 工具は R 32 用または R 410 A 用の工具を使用してください。

作業手順

- 室内ユニットのフレアナット及びキャップを取外す。
※ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けて外してください。
(このときガスが出る場合がありますが、異常ではありません。)
- 液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。
※配管の曲げは4D以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。また配管をねじったり、2/3D以下に曲げたりしないでください。
※フレア接続は、以下のように行ってください。
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3～4回回転ねじ込み、2丁スパナ掛けで上表の締め方で締めてください。
- 室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、下図に示すように室内ユニットの断熱材で覆い、付属のインシュレーションで切込み部を断熱してからテープビグしてください。
●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
※配管は断熱しないとし結露し水漏れします。
●高湿度劣化等を使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。
※強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。
4. 冷媒は室外ユニットに充填されています。
室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。

注意
同一掛けトルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部間の摩擦係力が上がることで、ねじ方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、又はフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しません。
冷媒機油塗布する場合は、フレア内面へのみとしてください。



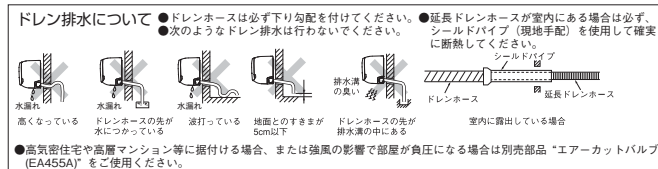
7

⑦ドレン配管

ドレン配管時の注意事項

- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
- ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガス及び可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。室内に有害ガス及び可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
- 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
- 施工後、ドレンが排水されていることを、室内ユニットドレン口及びドレン配管最終出口部で確認してください。
- ドレン配管は下り勾配 (1/100 以上) とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。

- ドレン配管は、ドレンホース先端に硬質塩ビパイプ一般管 VP-16 が接続可能です。
- ドレン配管はドレン水が流れやすいように下り勾配にし、配管途中にトラップをつくらず山越え配管をしないようにしてください。
(左、右、後、下方向に取出し可能)
室内に施工の硬質塩ビパイプ (VP-16) は確実に断熱してください。
- 熱交換器の下ドレンパンに水を注ぎ室外へ排水されることを確認してください。(前面パネルの取付け取外しについては本説明書 ⑨電気配線取出し位置および電気配線接続) をご覧ください。

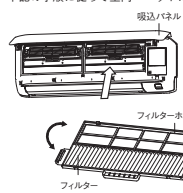


- ドレンホースは必ず下り勾配を付けてください。
- 次のようなドレン排水は行わないでください。
- 延長ドレンホースが室内にある場合は必ず、シールドパイプ (現地手配) を使用して確実に断熱してください。
- 高気密住宅や高層マンション等に据付ける場合、または強風の影響で部屋が負圧になる場合は別売部品「エアカットバルブ (EA455A)」をご使用ください。

⑧空気清浄フィルターの取付け

下記の手順に従って室内ユニットに取付けてください。

- 吸込パネルを開け、エアフィルターを取外します。
- 付属品に同梱されている水洗いサンパルター (オレンジ) と酵素強力除菌フィルター (グリーン) をフィルターホルダーに取付けます。
空気清浄フィルター交換時はユニット本体からフィルターホルダーを取外し、新しい空気清浄フィルターと取替えてください。
※酵素強力除菌フィルターはブリーツ (ひだ形状) が手前側になるように取付けてください。水洗いサンパルターはどちらをおもてにしておいていただいても結構です。
- 空気清浄フィルターを取付けたフィルターホルダーをエアコン本体に取付けてください。
※水洗いサンパルター、酵素強力除菌フィルターは左右どちらへ装着いただいても結構です。
- エアフィルターを取付け、吸込パネルを閉じます。

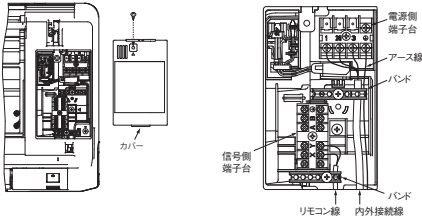


PHA012D405

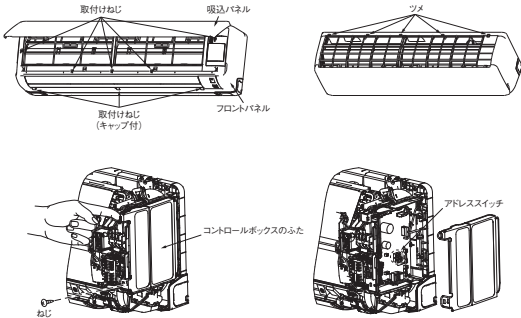
8

⑨電気配線取出し位置および電気配線接続

- 電気工事は電気工士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
 - 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
 - 電源配線と通信配線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
 - D種接地工事を必ず行ってください。
 - 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。
- ①吸込パネルを手前に引き上げてください。
左右側面の凹部に手をかけ手前に引き上げますと約 60°～70°開いた状態で静止します。
- ②カバーのねじを外して、カバーを外してください。
- ③各配線を端子台に確実に接続してください。
- ④各配線をバンドで確実に固定し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないようにしてください。
- ⑤カバーを取り付け、ねじを締めます。
- ⑥吸込みパネルを締めます。
- (注意) ・配線を端子台に取り付けるときは、端子番号を確認してから取り付けてください。



- アドレス設定
- 室内ユニット本体のフロントパネルと、コントロールボックスのふたを取外すことでアドレススイッチの設定が可能です。
1. フロントパネルの取外し順序
- ①吸込パネルを取外してください。
 - ②取付ねじを取外してください。(5ヶ所・キャップ付3ヶ所)
 - ③上部のツメ(5ヶ所)を外し、フロントパネルを取外してください。
2. フロントパネルの取付け順序
- ①フロントパネルをユニットにかぶせ、上部のツメ(5ヶ所)を引っ掛けてください。
 - ②取付ねじを締めます。(5ヶ所・キャップ付3ヶ所)
 - ③吸込パネルを取付けてください。



⑩ユニット据付工事完了後のチェック項目

●ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良だと...	チェック欄
室内外ユニットの取付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水滴れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水滴れ	
電源電圧は室内ユニットの銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

メモ